

ASEAN はアジアの NATO にノー

インドネシアの英字紙ジャカルタ・ポストは 10 月初めの ASEAN 首脳会議を控えた 2024 年 10 月 5 日、「アジアの NATO にノー」と題する社説を掲載し、「ASEAN は、石破氏のアジア NATO 構想には賛成しない。ASEAN が必要としているのは、信頼できる貿易・経済パートナーとしての日本であって、地域の緊張を悪化させるだけの軍事同盟国ではない」と強調しました。以下はその要旨です。

日本の経済力が低下し、ASEAN の経済規模が拡大するなか、たとえ彼が時の試練に耐えたとしても、前任の岸田文雄と同様、石破氏には ASEAN の指導者たちを惹きつけるだけの魅力はない。

日本の石破茂首相は、来週ビエンチャンで開催される年次サミットで ASEAN 首脳に自己紹介する際に、アジア版北大西洋条約機構（NATO）を設立するという壮大な構想の宣伝は控えるべきだ。

日本のメディアや世論調査会社は、石破茂政権は短命に終わるだろうと予測しているため、ASEAN の指導者たちは、彼がいつまで生き残れるかわからないからだ。それに ASEAN の経済規模が拡大し、日本の経済力が低下する中、たとえ彼が時の試練に耐えることができたとしても、ASEAN 首脳を誘い込むために提供できるものはあまりない。

この地域のすべての国々は、依然として日本を主要な投資先、主要な貿易相手国と考えているが、今や ASEAN の方が大きな交渉力を持っている。

日本や他の大国は、ASEAN がインド太平洋の中心であり続けると何度も断言してきた。しかし、言葉と行動はまったく異なっている。オーストラリアや日本を含む西側諸国とその同盟国は、ASEAN が台頭する中国の台頭との戦いに加わる

ことを望んでいる、

アジア版 NATO の構想は、利用可能なすべての軍を団結させ、中国に対抗することを目的としている。10 カ国からなる ASEAN にとって、これは非常に攻撃的なものである。石破氏は新しい軍事同盟が中国、ロシア、北朝鮮に対する抑止力として十分に強力なものになると期待しているし、日本は非公式軍事同盟であるクワッドのメンバーである、またオーストラリア、イギリス、アメリカとともに AUKUS 軍事同盟の 4 番目のメンバーになることも検討してきた。

しかし ASEAN には、日本を含むアメリカやその同盟国が考えている以上の選択肢がある。ASEAN は中国、日本に次ぐアジア第 3 位の経済大国であり、アメリカ、中国、ドイツ、日本に次ぐ世界第 5 位の経済大国である。

日本は昨年末、世界第 3 位の経済大国の座をドイツに奪われた。現在はアメリカ、中国、ドイツに次ぐ第 4 位である。日本は 2010 年まで日本は 2010 年まで世界第 2 位の経済大国であったが、中国に抜かれた。

ASEAN にとって日本は第 4 位の貿易相手国であり、同地域の輸出入総額の 7% を占めるに過ぎない。さらに海外からの直接投資に占める日本の割合はわずか 6% にまで落ち込んでいる。

ASEAN は、石破氏のアジア NATO 構想には賛成しないだろう。グループとして ASEAN が必要としているのは、信頼できる貿易・経済パートナーとしての日本であって、地域の緊張を悪化させるだけの軍事同盟国ではない。(了)

【要約 田中靖宏】

原文は以下で参照できます。

<https://www.thejakartapost.com/opinion/2024/10/05/no-to-asias-nato.html>.